

〔第3号議案〕2013年度活動計画

1. はじめに

一昨年3月11日に起きた東北関東大地震は、地震津波による被害とその直後に発生した福島第一原発の放射能漏れ事故により、私たちの生活を一変させる事態に至りました。私たちTウオッチの活動も地震による被害からの復興に向けて、有害化学物質による二次被害を無くすという観点で活動を進めてきました。

化学物質汚染調査と放射能汚染調査の二本立てで、調査活動を続けてきました。また、昨年4月にTウオッチは設立10周年を迎えました。PRTR集計データも10年分蓄積され、自分たちの活動の総括も含め、有害物質の環境への排出をどうとらえるのか、節目の年でした。運営スタッフが固定化する中で、充実した活動ができたと思いますが、2013年はさらに取組みを進めていくために課題も多いです。

今年度の活動を重点課題と一般課題に分け提案いたします。

2. 重点課題

①昨年の総選挙で民主党から自民党に政権が交代し、国会での化学物質政策基本法を制定する動きは振出しに戻りました。2020年目標の達成のためには、基本法の制定は重要だと考えます。Tウオッチとしては、ケミネットの参加団体とともに、市民にとって役立つ化学物質政策基本法が制定されるように、与野党を問わず、国会議員に対する働きかけを強化していきます。3年前に化学物質政策基本法を求める署名活動の際に呼びかけた2020年目標の達成のための化学物質管理に関する8つの基本原則に基づいた基本法が制定されるよう活動を続けていきます。

また、10月には水銀規制国際条約の締結会議が水俣市、熊本市で行われます。Tウオッチとしても、国際的な化学物質管理を進めていく観点から、取り組んでいきます。

②PRTRデータの経年変化について、詳細な検討を行います。事業者の努力がどの程度進んでいるのか、自主的な取組みについて、評価する指標の検討を続けていきます。

③東日本大震災の復興に向けた取組みを継続、強化していきます。

有害化学物質による土壌汚染調査については、汚染が確認された地域の追加調査を実施していきます。また、PRTR届出データを精査し、津波で被災した工場からの化学物質の流出実態を把握する作業を行い、PRTR制度の災害対応について改善すべき点をまとめ、提言していきます。

放射能汚染調査については、依頼測定だけでなく、日本の有機農業をはじめとする食と農の安全をめざす取組みを支えるという観点から、福島、栃木、埼玉、神奈川などで、有機農業を継続しながら放射能汚染を避ける取組みに努力をしている生産者と協同で、定点測定調査活動に取り組めます。

あわせて、最終年度を迎える三井物産環境基金のまとめの作業に着手していきます。

3. 一般課題

①PRTRデータを市民が有効活用するという方法を普及していく活動には引き続き取り組んでいきます。事業者、地方自治体、市民団体とのリスクコミュニケーションの場である地域セミナーに

については、数か所の地域で開催していきます。

②Tウォッチのウェブサイトの運営、データベースの更新作業に関して、協力者を増やし、迅速に対応できる人材を確保していきます。

③Tウォッチの **PRTR** および温室効果ガス排出量検索データベースを更新するとともに、昨年度から取り組んでいるウェブサイトの改定作業を継続し、ウェブサイトの英語化を完成させる作業を引き続き実施します。

④Tウォッチの財源確保の意味合いもありますが、市民団体や生協等からの学習会の講師を積極的に引き受け、市民による **PRTR** データの有効活用を進めることに取り組んでいきます。

4. 財源の確保について

従来から指摘されてきたTウォッチの財源基盤の確立問題ですが、三井物産環境基金で指摘された内容を踏まえ、放射能測定活動を収益事業と位置付けて、継続した事業財源となるように維持していきます。測定活動を継続するために、必要な人材を確保していきます。あわせて、事務局体制の充実に向けた人材確保をめざします。

また、本年度は環境省等からの委託事業に対するアプローチも強め、収入確保をめざします。

Tウォッチの特性を生かした新たな収益事業の開拓を進めていきます。